

授業概要

貿易は、社会を豊かにする原動力であるといわれるが、近年保護貿易主義の台頭が著しくなっている。このような状況にあって、「どのような貿易体制が望ましいのか」という問題について、経済学が導き出す結論が社会の処方箋として有効な手段となりうることを理解できるよう講義する。特に学生諸君には自分の課題として受け止めてもらい、国際経済についての理論分析とデータに基づいた正しい認識を持てるようにしたい。またこの講義を通じて、私たちが目指すべき望ましい国際社会とは何かについて考えたい。このような問題意識の下、この講義が、学生諸君にとって考える切っ掛けとなるように講義を進めていきたい。

授業計画

第1回	ガイダンス 授業概要と評価方法
第2回	消費者行動 需要法則
第3回	生産者行動 供給法則
第4回	市場分析 価格の決定 消費者余剰と生産者余剰
第5回	貿易前と貿易後の比較 自由貿易の利益 なぜ貿易が行われるのか
第6回	自由貿易と保護貿易 一国の経済利益と他国の利益比較
第7回	関税政策(1) 死重の損失(死荷重)の発生
第8回	関税政策(2) 生産者余剰の変化
第9回	関税政策(3) 消費者余剰の変化
第10回	輸入関税が課されるのはなぜか(1) 関税を課す立場から考える
第11回	輸入関税が課されるのはなぜか(2) 意図が伝わる図の作成
第12回	輸入関税が課されている社会 良い所と悪い所
第13回	輸入関税が課されていない社会 良い所と悪い所
第14回	私たちが目指すべき国際経済社会(1) 保護主義の歴史的教訓
第15回	私たちが目指すべき国際経済社会(2) 包摂的貿易
第16回	期末試験 筆記試験の実施

到達目標

経済学の考え方、分析手法、論理体系を学ぶことで、よりよい国際経済を構築するために社会をどうデザインしたらよいのかを考えることを通じて、最終的には学生個人が一人の社会人としての見識を持ち、現代社会を批判的に考察できる。

履修上の注意

この授業は、PBL (Project Based Learning) を積極的に用い、学生間での意見交換を重視し参加型の講義を行う。また、事前的に経済学の知識は必要なく、必要に応じてその都度経済学の考え方を紹介する。なお、遅刻3回で欠席1回分にカウントする。授業において特別講師等を外部から招聘する場合がある。

必要なら初歩的レベルから丁寧に解説をしていくので、基礎知識がなくてもやる気さえあれば十分な能力を身につけられるように指導します。

予習復習

第14回の保護主義の歴史的教訓と第15回の包摂的貿易について事前に調べておくこと。講義で描いた図が何を表しているのかを講義後にまとめること。

評価方法

期末試験としての筆記試験 100%で評価する。また、毎回出席を取る。

テキスト

特に指定はしないが、その都度推奨図書や参考図書を紹介し、その他必要に応じて、HP 等からのデータ引用を行う。